

上の二山！ 本校の先輩達

「弥生の舞」の歴史



昭和59年（1984年）7月12日、斐川町から全国に衝撃的なニュースが駆け巡りました。

荒神谷遺跡から大量の銅剣358本が発見されたニュースです。荒神谷遺跡での銅剣発見までに、全国で発見された銅剣の数は300本余り。この荒神谷遺跡で発見された銅剣は、全国の数を上回り、しかも一カ所から発見されたのです。また、発見された銅剣の多くに「×」の印が刻み込まれており、その意味をめぐって、様々な仮説も立てられています。当時大きな勢力をもった古代出雲国成立をうかがわせる大発見でした。

今年2015年は、銅鐸・銅矛発見から30周年の記念の年にあたります。そこで、この「弥生の舞」の歴史について調べてみることにしました。

世紀の大発見から5年後の平成元年11月4日、荒神谷遺跡復元完成記念式典が開催されることになりました。この式典に合わせ、弥生時代をイメージする舞踊の制作と児童による発表が計画されました。平成元年、当時の江角龍夫校長から本田真理子教諭に、「笛奏者の樋野達夫氏作曲の「こころ」に合わせた舞踊を制作するように」との指示が出されました。

指示を受けた本田教諭は、「剣を高く捧げる」「大地を力強く踏みしめる」イメージを中心に、振り付けの前半部分の構想を練っていました。この年の9月27日から「アカツキ・ハウス」に滞在していた芥川賞作家で韓国舞踊研究家の李良枝（イ・ヤンジ）氏に踊りを見てもらう出逢いから、李氏のアドバイスをもらい完成した舞が「弥生の舞」なのです。その後、今日まで毎年5・6年生に引き継がれ、踊り伝え続けられてきました。

今年度は、31名の児童からの参加希望がありました。多くの子ども達が、この舞に関心を持ち、受け継いでくれていることに心が熱くなります。ひかわ銅剣の日と、学習発表会「荘原っ子フェスティバル」で伝統の舞の発表を行っています。

年 月	主な出来事
1984年 7月	銅剣358本出土
1985年 7月	銅鐸6個出土
1985年 8月	銅矛16本出土
1989年 11月	荒神谷遺跡復元完成式典 荘原小学校『弥生の舞』発表
1995年 5月	荒神谷史跡公園開園
1998年 6月	荒神谷出土青銅器国宝指定
2000年 7月	記念日『ひかわ銅剣の日』制定
2005年 10月	荒神谷博物館開館



▲ 学習発表会「荘原っ子フェスティバル」から】